



# カンボジア体育科教育の人材育成 ～岡山市との連携事例～

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド本部事務局 事業部長 井上 恭子

## ハート・オブ・ゴールドの活動

ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）は、1998年の設立から、アンコールワット国際ハーフマラソンの継続開催と現地化をはじめ、カンボジアでスポーツや教育を通じた人材育成、自立支援を20年にわたり行ってきました。

そのなかで、カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）から体育科教育の支援要請を受け、2006年にJICA草の根技術協力事業として小学校体育科教育支援に着手しました。

事業内容は、教育省のスポーツ総局に新設された学校体育スポーツ局のメンバーとともに、指導要領と指導書の作成を行い、それを用いた「新しい体育」の普及でした。学校体育スポーツ局のメンバーが「新しい体育」を知り、学校現場に指導していくリーダーとなることが重要なポイントとなりました。2009年、メンバーのうち6人をナショナル・トレーナー（以下、NT）として位置付け、本格的にカンボジアの体育科教育の専門家の育成を始めました。

## 自治体国際協力促進事業（モデル事業）

2011年、HG本部が所在する岡山市との連携により「自治体国際協力促進事業（モデル事業）」として、NTの日本での研修が実現しました。岡山県や岡山大学の協力も得られ、受入れ校の選定や日程、体育の授業内容や時間割の調整などは、県、市の両教育委員会保健体育課にご担当いただきました。

11日間の研修は小学校だけでなく、中学校、高校の体育の授業や部活動見学、総合型地域スポーツクラブでの体験、大学での特別講義、保健体育課職員の方による行政の役割や学校との関係についてのレクチャーなど、充実したプログラムとなりました。

特に運動会の視察は、多彩な競技種目や円滑な進行、児童の運営参加、多数の保護者や地域住民の観覧など、驚きとともに非常に感銘を受けるものとなりました。

また、HGを通してカンボジアと交流活動を行っている岡山市の学校や先生方のサポートが、研修を成功に導いてくれました。



NTと研修受入れ校の校長先生



岡山市の小学校で体育の授業の見学

NTは、実体験がないままカンボジア国内で事業をすすめてきましたが、それまでに蓄積してきた知識と、研修中に実際に見たものが融合し、帰国後には自信をもって、より意欲的に事業に取り組むようになりました。

## カンボジアで運動会

2013年、NTからHGをとおして岡山市に運動会実施への専門家派遣の要請がありました。これに応え、岡山県の補助金を利用し、岡山市は教育委員会保健体育課の職員、岡山県は小学校長を公務派遣とし、岡山大学教



教育学部の教員との協働による支援チームを編成し、それ  
に同大学の学生 13 人も加わりました。

NT は、運動会の目的を「みんなが楽しむ」、「体育の  
授業の成果を発表する」、「地域とつながる」とし、子ど  
もたちが楽しめ、体育を好きになる、カンボジアオリジ  
ナルの運動会「PE Festival」を目指しました。



2013 年 12 月 シェムリアップ州ワット・チョーク小学校



教育省副大臣への運動会の報告と提言

現地では、派遣チームは習慣の違い、用具の不足や使  
い方の指導など試行錯誤しながら、NT と開催校の先生  
が主体となって準備や運営を行えるように、都度、丁寧  
な説明と協議を重ね、粘り強く対処し、後方支援に徹し  
ました。あわせて開催校の校長先生のリーダーシップ  
が、カンボジアで教育省主導として初めての運動会の開  
催を見事に成功させました。

実施後には、教育省副大臣へ報告を行い、岡山市の職  
員の方からは、今後の継続実施とそれに係る教育省内で  
の予算確保について提言をされました。

運動会支援は、2014 年も岡山県の補助金により継続  
し、2015 年には再び「自治体国際協力促進事業（モデ  
ル事業）」として、NT の運動会に特化した日本での研  
修受入れと、バタンバン州 4 校への運動会支援の派遣  
を実施しました。

支援校は、2013 年 1 校、2014 年 2 校、2015 年 4 校  
となり、各校はその後毎年継続開催し、周辺校でも NT

の指導により運動会開催の輪が着実に広がっています。

## 岡山の先生からカンボジアの先生へ

2016 年は「自治体国際協力促進事業（モデル事業）」  
にて、岡山市から提案された体育実技講習会を試みまし  
た。これは、運動会支援よりもさらに、直接的な技術や  
指導のノウハウの伝達を行うものでした。

市内小学校の教員 4 人が、カンボジアの体育のモデル  
校の小学校や教員養成校の教員、州・郡教育局担当官を  
対象に、マット運動とリズム運動の実技講習を各 2 日間  
行いました。シェムリアップとプノンペン の 2 会場で、  
それぞれ 52 人、48 人が参加しました。



体育実技講習会 マット運動（シェムリアップ）

## 信頼によるつながり

HG は、一連の事業が岡山市にとっても有益なもので  
あるように、活動内容を調整しました。岡山市からは、  
事業に携わった教員の意識変化や指導技術の向上、児童  
やその他の教員、学校にもたらす好影響や、学生の活動  
への参加など、岡山市が積極的に取り組む ESD（持続  
可能な開発のための教育）が目指すものと合致するとし  
て高く評価されました。

また、お互いの特性を活かして業務を分担しました。  
岡山市の各担当の方や先生方が事業の目的や意義を理解  
し、積極的に取り組んでいただけたことが、連携事業が  
成功した大きな要因と捉えています。

組織や体制が異なるからこそ、情報の共有や十分な協  
議が必要であり、信頼関係の構築が最も重要と考えます。

NT の岡山市に寄せる信頼は厚いものとなりました。  
その後、NT を補助するサブ NT、現在実施している中学  
校体育科教育の関係者の研修も受け入れていただき、体  
育科教育における指導人材拡充の一助となっています。